# 天遊 TenYou

大阪教育大学広報誌

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY
PUBLIC INFORMATION MAGAZINE

2018 特別号

Athlete's View

TOPICS

附属学校園ウォッチ

特集1 学長対談「地域のためのアカデミア」

特集2 内定者座談会 教員編 ／ 企業編

大教大NAVI 天

アプリを利用すれば、今号の「天遊」に関連した動画が視聴できます。
「大教大NAVI」アプリをダウンロードして、左記のアイコンと同じボタンをアプリ内でタップするとカメラ画面に切り替わります。次に左記のアイコンをカメラに読み込ませると、動画が視聴できます。
詳しいアプリの使い方はホームページをご参照ください。

国立大学法人
大阪教育大学

学長対談

世界が大阪についてくる!?

# 地域のためのアカデミア

大阪市立大学長
荒川 哲男（あらかわ てつお）

大阪市立大学医学部卒
大阪市立大学大学院医学研究科
内科学専攻内科学第3課程修了、医学博士。
大阪市立大学大学院医学研究科長 兼
医学部長を経て現職。
昭和25年生まれ、67歳。

大阪教育大学長
栗林 澄夫（くりばやし すみお）

富山大学文理学部卒、
大阪大学大学院文学研究科
修士課程修了、文学修士。
大阪教育大学理事・
副学長を経て現職。
昭和23年生まれ、69歳。

## 「Think globally, act locally.」
## ―地球規模の視野で考え、地域視点で行動する」
## そんな人材育成や研究の推進に力をいれている
## 大阪教育大学と大阪市立大学。
## 両学長が、大阪の特色や特性を活かした
## 大学づくりについて、語り合いました。

### グローバル社会における大学教育の課題

**【栗林】**

少子化により人口が減少する中で、日本という国をどう作っていくのかが問われています。また交通機関が発達して人々の往来が盛んになり、これまで国の中だけで考えていた様々なことが、グローバルに展開するようになりました。高等教育の在り方も、国全体で見直すべきだと言われています。こうした日本の人口減少、グローバル化ということも含めて、大学教育の課題などどのような思いを抱いておられますか。

**【荒川】**

グローバル化は確かに起こってきているので、どういう人材を育てるかというのが大きな課題です。ただ、英語を喋ることができればグローバル人材だと思っている学生もいますが、そうではない。英語は単なるツールです。また先生方の中には、英語だけが言語じゃないという意見もあります。確かにフランス文学をやるには、フランス語を学ばなければなりませんが、それは学問として勉強するもので、意味が違います。国際語、ツールとしての英語というものの存在を教える側も認識し、教えていくことが大事です。

それを使ってグローバルに活躍できるかというのは、その人の人格形成によるところが大きいと思います。野球のダルビッシュ投手の言葉で印象に残っているものがあります。0対0で競り合っていたある試合で、ショートのエラーによってランナーが二塁へ進みます。その後ヒットを打たれてそのランナーが生還し、試合に負けてしまいました。その時のインタビューで、「自分はショートの選手を救えなかった。だから悔しい」と言っていた。彼がヒットを打たれなければ、ショートのエラーは帳消しになったからです。僕が感じた彼のグローバルさというのは、チームを大事にして、自分よりもチームメイトのことを先に考えるところ。彼のように、世界に信頼されるような人材を育てる必要があると思います。

そのためには、コミュニケーションが大事です。先日テレビ番組を見ていたら、東京と大阪の街頭で声をかけて、一緒に大縄跳びにチャレンジしてくれる人を探すという企画をやっていました。大阪では、知らない人たちがすぐに集まって、一緒に一つの目的に向けて行動できる。大阪という土地は、比較的にコミュニケーションを取ることが上手いという土壌があります。学生には、そういう土壌のある所で教育を受けることの意味を実感して欲しい。

**【栗林】**

コミュニケーション力をもって社会に対応していくことのできる人材を育成することが求められている。では、そうした学生を私たちは育てられているのかというと、なかなか課題が多いのが実情です。教育機関として、教育内容をどう組み立て、どう学生に伝えるか。荒川先生は、大阪市立大学の医学部ご出身で、医者として成長してこられたと思います。ご自身が受けてこられた教育プロセスで、これが有意義だったとか、こういう点を学校制度の中で解決していくべきじゃないかといったお考えがありましたらお聞かせください。

**【荒川】**

最近のアンケートで、「自分が役に立つと思わない」という自信のない回答をする高校生が、米中韓と比べて、日本で圧倒的に多いという結果が出ています。逆に、「自分が将来なんらかの形で社会の役に立つ」と答えた日本の高校生は、およそ3割しかいない。他の国では概ね8割程います。日本人特有の謙譲の美徳でそうなっているのかもしれませんが、必ずしもそれだけではない。原因の一つは、正解が1つしかない問題を解くのに専念しすぎていることではないでしょうか。正しい解答が見つからないと手を上げられないという環境が、自信の無さにつながっているのではないかと思います。

医学部で育ってきて自分の中に残っているのは、やはり指導医から実践で教わったことです。一方的に聞く講義というのはほとんど印象に残っていません。その指導医は、時に食事をおごってくれて、悩みを聞いてくれたりするメンター的な存在でもありました。礼儀作法のような基本となることから見てくれて、間違ったら叱ってくれる兄のような存在でした。そういう人から受けた指導は、自分の形成にすごく役立っていると感じます。

一方的な講義で知識だけを教えるという教育ではもう駄目です。正解のない問いに対して答えを導き出すというプロセスの中で、課題解決の思考が生まれてくる。議論しながら課題解決をしていくような教育をもっと広げていかないといけません。

**【栗林】**

自分で体験し、考え、人と触れ合い、コミュニケーション能力を身につけて、お互い意思疎通をする中で学ぶことが、自分の実になっていくと、私も実感しています。

私が子どもだった時代は、自分の力で世の中を変えていこうという気概のある人が、それなりにいたと思います。でもいつの間にか、受験などを通して、マニュアル社会みたいになってしまった。学生がマニュアルに頼るのは、その方が簡単だからです。一方で、友達付き合いというものがマニュアルに頼れないこともわかっている。だから、世の中全体に対して消極的になっているのです。教育の役割は、そういう気持ちを解きほぐしてあげること。そして自分でやってみようという意欲を持つことが、自身の将来にも、日本の未来にもプラスなのだと教えることだと思います。

【荒川】

高度成長期の教育というのは、大量消費、大量生産をキーワードに、物事を早く正確に、マニュアル通りにこなすことを第一に掲げていました。そういった教育が、ある意味日本の成長を加速してきた側面があります。しかし今後、そういう作業は人口知能（ＡＩ）に取ってかわられ、人間の役割は違うところに置かれるようになる。

人間にしかできないこととは、いくつも正解があるものから解答を見つけ出すこと。今は激動の社会ですから、想定外の状況を生き抜くことも大切で、マニュアルにこだわり過ぎたら自分の命を捨ててしまうことにもなりえる。いろんな正解がある中で、どれがベターなのかを積極的に選択し、ミスを恐れずリーダーシップを発揮する、そんなトレーニングが必要だと思います。

【栗林】

高度経済成長期ぐらいから、教育体制そのものを見直す必要があった。それに出遅れて、現在の状況があります。少子化が進むことに、国全体が恐れを抱いています。教育改革を行うことでそれをカバーしないといけない。

【荒川】

子どもたちに積極性をもたせるには、小さな成功を積み重ねていくことで自信をつけさせることが必要です。先ほどのアンケートにもあったように、他国と比べて高校生で自信のない人が多いのは成功体験が少ないからだと思います。

親も、子どもに高いところを望みすぎて、否定で教育をしている部分があるように思います。ちょっとした成功でも喜んであげて、よくやったとほめてあげたら、自信に繋がるんじゃないでしょうか。家庭での教育と学校での教育とをシンクロさせて、子どもに自信をもたせるような教育を小さい頃からやっていく。そうすれば質問に手を上げようとか、世界で活躍しようとする積極性が戻ってくるのではないかと思います。

## 地域を支える人材の育成

【栗林】

大学の使命として、地域への貢献も非常に重要な要素です。大阪教育大学では、積み重ねてきた教育・研究を地域に役立てていくということに、これまでにも増して取り組んでいかなければならないと考えています。大阪府や大阪市などと協定を結んで、教員の再研修や学生のインターンシップを奨励し、地域と協力して行う教員育成を推進しているところです。大阪市立大学では、そうした地域に対する視点、貢献ということについては、どのような取り組みを進めておられるでしょうか。

【荒川】

本学は公立大学ですので、地域に貢献できる人材の育成や、地域の産業の活性化に役立つようなシンクタンクになっていくことがミッションだと思っています。

どんな大学でも、まずは地域のためにアカデミアとしてどう活躍するか。それには双方向性が重要です。異文化を経験した人を地域に活かす、あるいは地域で育てたものをグローバルに展開する。地域だけに留まっていたのでは意味がありません。地域をベースに、あるいは地域をモデル都市として作り上げることによって、それを世界に広げなければならない。

私が学長になってから出したスローガンは、「笑顔あふれる、知と健康のグローカル拠点」。大阪の抱える課題を、みんなで横断的に解決していこうというプロジェクトです。昨年2月末、大阪の健康寿命を延ばすことを目標とする連携協定を大阪市と結びました。これには企業の参画が絶対に必要なので、並行して合同会社を作り、17社に加盟してもらっています。大学の資源を結びつけていきながら、健康寿命を延ばすためのいろいろな製品を作り、産業の活性化につなげようとしています。大阪は都道府県の中で一番健康寿命が短いので、それを解決に向かわせることができれば、世界も大阪についてくる。課題解決のモデルケースとなることをめざしています。

【栗林】

企業を取り込むことで大阪市全体の活力を高め、健康増進に貢献するということですね。実は教育分野も似たような状況で、全国統一のテストで大阪の成績は芳しくない。自治体と協力して、教育を活性化しようとしています。また子どもたちの教育格差をなくすことで、貧困対策にもつなげることをめざしています。狙いは違いますけど、同じような志の取り組みを進めていますね。

## 大学間の連携について

【栗林】

大阪教育大学では、平成29年度に学部改組を行い、教育協働学科を新設しました。高度な専門性をもつと同時に、現場で活躍できる実践力のある人材を育成していきたいと考えています。高度な専門性というところを中心に、大阪市立大学のお力を貸していただけたらと思っています。あるいは、大阪市立大学で教員免許を取られる方に、本学が力になれるのではないか。最終的に地域貢献に繋がるような形で、お互いギブアンドテイクで協力できるような可能性がないか、模索できればと考えています。

【荒川】

学生の時間が非常にタイトになってきていて、移動して授業を受けるということがかなりネックになります。その辺を解決できれば、ニーズが増えるかもしれません。

【栗林】

大阪市立大学が中心となって進めている「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ女性研究者研究活動支援事業」では、女性が活躍できる大学像を作っていく取り組みとして、本学と和歌山大学、積水ハウスと事業を展開しています。

【荒川】

ダイバーシティ（多様性）の中で新しいイノベーションを生み出すために、女性にも積極的に参画していただく。女性をひいきするような捉え方は、女性に対して失礼だと思います。男性と同等に扱うということではなく、男性にない能力、女性の強みが発揮できるようなダイバーシティでなければなりません。

個人的な意見ですが、例えば対外的・国際的なコミュニケーションは、男性より女性の方が優れていると感じます。適材適所で女性が活躍すれば、全体としてイノベーションに近づいていけるのではないでしょうか。単に数字で何％という基準だけ決めてもあまり意味はありません。女性の参画が増えたことで、どういう新しい成果が生まれたかが重要です。またそれをどういう指標で評価するのかも検討しているところです。

【栗林】

まさにその通りで、女性の数を揃えたら、女性が活躍する社会だという話ではありません。障壁があって女性が活躍する場が限られているのであれば、それを取り除いて、本来の力を発揮してもらう。国としても、各機関としても、そういった組織づくり、社会づくりを進めていく必要があります。

【荒川】

ダイバーシティを形成する要素としては、障がい者の方や外国人の方も該当します。何が優れているかというのはそれぞれ違いますが、多様性の中でプラスに働くものを見出せれば、障壁は消えていき、むしろ強みになります。女性支援もそういうものの一環だと考えています。

【栗林】

ありがとうございました。

小さな成功体験を積み重ねて自信を持たせ、個性を伸ばすことが、地域を超えたグローバルな領域でもコミュニケーション力として生かされるというお話はとても印象的でした。

最後に大学オリジナルグッズを交換。荒川学長からは、自ら開発に携わった「学長ビーフシチュー」などの市大グッズが、栗林学長からは、大教大公式キャラクターグッズが手渡されました。

# 内定者座談会
《教員編》

教採突破の極意は？
内定が決まった3人が語る、試験対策のあれこれ。

## 教員をめざしたきっかけ

**南濱** 学部では教養学科芸術専攻所属で、入学当初から中高の教員免許は取るつもりでした。転機は、中学校での教育実習です。音楽に苦手意識のある子が多いなという印象でした。子どもたちと接してみて、小学校の時に音楽の授業が難しいとか退屈だと感じたのが原因ではないかと考えました。そういう子どもを少しでもなくしたくて、小学校教員をめざすことにし、大学院に進学しました。

**豊坂** 私が教員になろうと思ったのは、将来に悩んでいた高校生の頃です。学校の先生は一番身近な職業だし、なにより先生たちが生き生きとして、楽しそうでした。こんな大人になって、楽しく働きたいと思ったのがきっかけです。小学校は勉強だけでなく、遊び、給食、掃除など、子どもの生活全体を見ることができるのが魅力。自身の長所である、元気の良さや明るさが一番生きる場所だと思っています。

**大角** 高校生の頃、栄養学や保育学などに興味があり、大教の家政教育専攻なら全部学べると入学を決めました。教員になりたいというよりは、家庭科が好きで入った感じでしたが、周囲には教員をめざす人がたくさんいて、先生になって家庭科を教えれば楽しいかもしれないと思うようになりました。高校時代の家庭科の先生に憧れていたこと、高校のほうが内容も難しく面白いので教えがいがあることから、高校教員をめざしました。

## 教員採用試験の対策を始めた時期

**大角** 勉強を始めたのは、4回生の4月頃です。家庭科と教職教養科目が中心でした。家庭科の勉強は、自分でまとめるのがいいとアドバイスをもらったので、参考書を買ってノートにまとめていきました。問題を解く中で新しいことができたらそこのページに戻って書き足し、どんどん更新していきました。教職教養科目は、学校教育講座の高橋一郎先生がやっている教員採用試験（以下、教採）の対策講座をウェブで視聴していました。特に教育心理と教育史の語呂合わせが参考になったのでお勧めです。あとは過去問をやっていました。

**南濱** 私もちゃんと勉強を始めたのは、4月に入ってからでした。図書館で小中学校の教科書を探して、思い出しながら勉強しました。問題集をひたすら解き、歴史など特にわからないところだけ高橋先生の動画を見ていました。過去問も繰り返しやりました。

**豊坂** 大体、大教生は4月頃から勉強を始めますよね。私も高橋先生の動画を、その頃から見始めました。本格的に勉強を始めたのは、6月に高知県の教採を受けてから。このままではだめだと気づいて、真剣に取り組みました。学内にある学生向けのオープンスペース「メロンルーム」で友達と二人、朝から晩までずっと勉強していました。互いに違う問題集を買って交換したり、問題を出しあったり、お勧めの勉強法を教えあったり。その友達のお陰で合格できたと思っています。私は社会がとにかく苦手だったので、中学生向けの社会科の問題集を買って、本当に初歩的なところから勉強を始めました。

**大角** 私は逆に一人でないとできなくて、大学の図書館で朝から晩まで勉強していました。友達と休憩をはさんだりすると全然集中できないんです。それに友達に会って話を聞くと、すごくよくできていて、自分のことが嫌になってしまう。皆で合格できれば一番いいですけど、ライバルだということも理解していて、意識せずにはいられませんでした。

**豊坂** あるある。あの人はこの問題で何％取れたらしいとか聞くと、「勉強しなきゃ、どうしよう」と焦りが募る。

**南濱** 私は大学院生なので、一緒に教採を受ける友達が少なくて、ひたすら孤独でした。辛くなると、友達をご飯に誘ったりして息抜きに付き合ってもらいました。家では全然集中できないので、私も図書館に行っていました。図書館は勉強している人がたくさんいるので、私もやらねばという気持ちになりましたね。

南濱 糸子（みなみはま いとこ）さん
大学院教育学研究科音楽教育専攻
内定先：奈良県小学校教諭

## 面接試験について

**豊坂** 兵庫県の試験では、模擬授業後の面接官の言葉がすごくドライで、絶対落ちたと思いました。面接では「こんなことが起こったらどうしますか？」という質問が多かったです。例えば仲の良い子ども同士が集まって、学級が小グループ化していった時のメリットとデメリットは何か、それをどう改善するかといったものです。自身の経験を話したり、自己ＰＲしたりする時間があまりなく、厳しいなという印象でした。

**南濱** 合格した今だから言えますが、手ごたえはありました。私は2年間小中学校でインターンシップを行い、研究授業も何度かやりました。そのおかげで、子どものトーンで話すことには自信があり、子どもを褒める場面も「いいね、それ！」と恥ずかしがらずにできました。個人面接もそのテンションのまま、笑顔で元気よく受け答えできました。受験する都道府県校種別に学生同士で教採対策を行う「教採カフェ」で練習した質問が面接でそのまま出たことも大きかったです。

**豊坂** 模擬授業は演技力ですよね。子どもたちの楽しい、積極的に発言しようという気持ちを引き出すために頑張っています、という演技がいかにできるかです。

**南濱** 模擬授業には、もちろん子どもはいない。全然笑ってくれない面接官の前で、いかに恥を捨てるかです。

**大角** 本当その通り。どれだけ授業が上手でも、演技ができないと厳しい。面接官はずっと真顔。面接官を通り越した向こう側に子どもがいると想像して授業しました。

## キャリア支援センターを活用せよ！

**豊坂** キャリア支援センターは利用しましたか？センターの竹島先生はめちゃくちゃ厳しいけど、的確な指摘をしてくれる。先生のおかげで面接を乗り越えられました。

**大角** 竹島先生と、同じくセンターの佐藤先生の所に行きました。竹島先生は本当に厳しい。でも、だめって言うだけでなく、どこがだめなのか指摘して、対案を示してくれます。そうやって練習の度にだめ出しされてたんですが、試験直前になると途端に優しくなるんですよ。

豊坂 直毅（とよさか なおき）さん
学校教育教員養成課程理科教育専攻
内定先：兵庫県小学校教諭

# 内定者座談会
## 《企業編》

就活成功の秘訣は？
内定が決まった3人が語る、最新の就活事情。

大角（おおかど） あゆみさん
学校教育教員養成課程家政教育専攻
内定先：大阪府高校教諭（家庭科）

「あんたはいける。私が太鼓判押したる」って。あまりの変わりようにめちゃくちゃ驚きました。

**南濱** 私は、どちらかというと佐藤先生のほうへよく行きました。佐藤先生はすごく褒めてくれるので自信を持てます。でもこれでは甘えてしまうと思った時に、竹島先生の所に行きました。竹島先生に厳しく指導されて落ち込んで、また佐藤先生に助けを求めに行く。また甘えそうになったら、竹島先生の所に行く。これを繰り返して、調整していました。

**豊坂** 私は竹島先生のほうに何度も通いました。甘やかされるとすぐ天狗になってしまうし、メンタルはかなり強いほうなので、どんどん言われたほうがいいと思っていました。

**南濱** 私は、教採カフェにもたくさん行きました。大学院生というのもあって、情報が全然入ってこないんです。教採カフェに行くと、学部生の人たちがすごく優しくいろいろ教えてくれて、情報や仲間を得るという意味でも良かったです。面接練習は、キャリア支援センターでは話の中身を指導してくれますが、教採カフェでは、姿勢や表情の作り方、受け答えが淡泊すぎるといった点を注意してもらえました。使い分けていましたね。

**大角** 視線とか姿勢は指摘しやすいからどうしても多くなりますよね。私は、教採カフェには質疑応答に慣れるために行っていました。

**豊坂** 知らない者同士なので、なかなか内容に踏み込みにくいというのもありますね。私は、模擬授業や面接の練習は、図書館のグループ学習室を借りて友達に見てもらっていました。友達なので、遠慮なく指摘してくれるのが良かった。教採カフェには時々参加して、自分にはない発想の意見を聞いたり、他の人の模擬授業でいいなと思ったものを取り入れたりしました。それと集団討論の練習ですね。教採で集団討論をすると、大教生は周りと全然違うなって感じませんでした？

**南濱** 確かにいい意味で浮いているなと思いました。手のあげ方とか、大教生はピシっとしてる。

**豊坂** 例えば、他大学の人はメモを取りながら話を聞いていて、下を向いている。でも大教生は、顔をあげて、話している人の目を見て聞いている。そういう大教のやり方はいいなと思ったし、面接対策のノウハウがたくさんあるんだと実感しました。

## 後輩へのアドバイス

**大角** 私はもっと積極的に、踏み込んで学べば良かったと後悔しています。基本実習の時も、指導案を作るのが大変で、あまり生徒と触れ合えなかった。でもそれはもっと行動すれば良かっただけです。なんとなく流れに乗ってやるのではなく、自分から関わっていこうとする姿勢が大事だなと思います。

**豊坂** 大学生活ではたくさんの人と出会うことができ、それによっていろんなチャンスがやってきます。積極的にその機会に乗れば、何らかの学びに繋がる。どれだけ幅広い経験ができたかというのが、教採でも今後の人生でも生きてくると思います。

**南濱** 大学は自分が受けたい授業を選べるのだから、必要単位だけ取って終わりではなく、学べることはできるだけ学べばいいと思います。

**豊坂** 私は単位がクリアできたからもういいやと、余分な講義はほとんど取りませんでしたが、今思うともったいない。旅行やアルバイトも含めて、いろんな経験をして、大学の使えるものはどんどん使う。授業中に寝るのはもったいないです。

**南濱** でも時間に余裕があるのも大教の魅力ですよね。教員養成大学なので、他大学のように教員免許を取るために追加で単位を取る必要がない。ボランティアやアルバイトをする時間があるのは、いろんな経験ができて良かったです。大学生活楽しかった。大教に来て良かった。

**南濱** そう思えるのが一番ですよね。私も大教に入って良かったなと思います。



## 就職活動を振り返って

**三尾** 総じて楽しかったです。いろんな企業の説明会に行って、自分が知らなかった仕事を知り、話を聞くことができたので、良かったと思います。

**石橋** 楽しかったというのも確かにありますが、やっぱり大変でした。3回生の4月から公務員試験の予備校に入って、1年ちょっと通いました。就職活動（以下、就活）全体が長く、特に前半は辛かったですね。

**中村** 私は、辛かったのが9割です。プレッシャーを強く感じ、選考に落ちると「私はやっぱり駄目なんだ」と思いました。でも、家族をはじめたくさんの人が「あなたにはいい所がいっぱいあるから頑張れ」と励ましてくれて、周囲への感謝が生まれました。

## 面接のこと

**三尾** みなさん、圧迫面接はありましたか？私は1度あったのですが。

**石橋** 私も1度ありました。3人の面接官のうち、1人がすごく不愛想。ずっと腕を組んで、無表情で下を向いていました。面接の終盤になってやっと顔を上げたかと思うと、同じようなことを何度も言葉を変えて聞いてくる。あたる人はあたると噂で聞いていたので、これがそうなのかと思いました。

**中村** 結構冷静ですね。私はなかったです。

**三尾** 私の場合は、小さな企業の面接で、いきなり社長がでてきました。何を言っても、「あーそうなんだ」と返される。大学でやっていることを聞かれて説明したら、「それってなんか意味あるんですか」と言われました。こっちも弱気になっていたのもあったかもしれませんが、正直、受かってもここでは働きたくないと思いました。

## 就活生の懐事情

**中村** 公務員試験ってどういう流れで進むのですか？

**石橋** まずは筆記試験を通らないと、面接に進めません。1つの機関で2、3回面接があります。面接と説明会を合わせて、20機関ぐらい行きました。全部東京で受けたので、夜行バスで行ったり来たり。交通費は全部自腹なので大変でした。

**中村** 就活はお金がかかるし、時間もないし大変ですよね。それでも私はお金のためだけでなく、気分転換にもなるので、週2日ぐらいのペースでアルバイトをしていました。

**三尾** 私も週2日、大学の図書館でアルバイトをして、他はほとんど就活にあてていました。生活が厳しくなるので、休むことはしなかったです。仕事は17時からなので、15時ぐらいまで説明会や面接を入れ、その足で大学に来ていました。

**石橋** 私は両立できないと思ったので、3回生の12月から10ヶ月ほど休みをもらいました。就活を終えてからまた復帰しました。

## 就活中の相談相手

**中村** 私は親に愚痴を聞いてもらっていました。「私を落とすなんて！」と文句を言ったら、「縁だから仕方ないよ、受かったところが向いているところ」とよく励ましてくれて、心の中で感謝していました。

**石橋** 私は予備校の仲間と励まし合いました。公務員にもいろんな仕事があるので、どこがどんな仕事かといった情報共有もできました。まさに同志という感じで、今でも仲が良いです。

**三尾** 私は大学に来て就活中の友人たちと話していました。愚痴を言うよりは、聞いていることが多かったです。話している時に企業から選考結果のメールが届いて、「見ようや」「いや、今は見たくない」みたいなやり取りもあって、面白かったですね。

## 合格は電話、不合格はメール？

**中村** お祈りメールとか来ますもんね。

**三尾** 良い結果の時は、大体電話。基本的に、メールが来たらもうアウトだと思っていたのでメールが来たらしばらく置いていました。

**石橋** え？開けずに？

**三尾** 開けると、そこで落ち込んでしまうので、しばらく置きます。寝る前に、「絶対落ちてるよな」と思いながら開けて、やっぱり落ちていたなと。

**中村** 私は、「こんなの送って来るなんて！」ってお祈りメールはすぐに削除していました。

**三尾** 私は保護をかけて、全部残しています。

**石橋** **中村** なんで？

**三尾** 後から見て、こんな所受けたなと思い出になるので。

**石橋** そんな考え方もあるんだ…。公務員はほとんど電話通知でした。その方が嬉しいですけど、ちょっとドキドキします。

## キャリア支援センターの活用法

**石橋** 私は主にエントリーシートの添削と面接の練習です。どこのエントリーシートでも1度は見てもらうようにしました。

**三尾** 就活を始めたのが遅く不安だったので、まずは今からでも間に合いますかと相談しました。それから、グループディスカッションの練習と就活マナーの講座に行きました。終わったあと突然、時間が余ったから面接の練習をしようということになり、全く準備できていなくてあたふたしました。きちんと対策しなければいけないと思い知らされました。

**中村** 自己分析、エントリーシートの添削、面接指導といろいろ参加しました。就活ノートを作って、教わったことは全部書いています。面接の手順、自己ＰＲのポイント、面接官が知らなさそうな言葉は説明をいれるなど、具体的なアドバイスをたくさんもらいました。

## 内定先企業に決めた理由

**三尾** やっぱり大きな企業だからというのはあります。あとは給与や福利厚生も重視していました。

**中村** 私は、「やってみなはれ」というサントリーの価値観にすごく惹かれました。出会う社員さんはみんな個性的で、ますます面白い会社だと感じました。他の企業は大学時代に頑張ったことをよく聞いてくるので、その度に「私の人生は大学だけじゃないぞ」と思っていました。サントリーは、今までの人生における価値観とか人となりを見てくれて、嬉しかった。あと、土日が休みというのも大事でした。

**石橋** 休みは重要ですよね。お酒は？

**中村** もちろん、大好きなお酒も理由の一つです。でもあまり聞かれなくて、最終面接の一つ前でやっと聞かれました。内定者の中にはお酒が全然飲めない人もいるので、選考でそこはあまり重要ではなかったのかなと思います。

**石橋** 公務員試験の勉強を始めたら、一口に公務員といっても市役所とかだけでなく、いろんな仕事があることがわかり、楽しくなりました。そこで改めて何を大事にしたいのか見つめなおし、自分は信念と正義感をもって働きたいのだと思いました。そんな中で、違法な輸出入を取り締まったり、適正に税金が申告されているか調べたりする税関の仕事を知って、自分が社会の役に立っていると実感できる仕事だと確信したのが決め手です。

**石橋 希珠（いしばし のぞみ）さん**
教養学科人間科学専攻
内定先：東京税関

**中村 瑶子（なかむら ようこ）さん**
教養学科健康生活科学専攻
内定先：サントリーホールディングス株式会社

## 全国転勤も楽しみ！

**三尾** 私は全国転勤ありですが、どこへ行くとしてもいい経験になると思っています。自分から田舎に行くことはそうないと思うので、田舎に配属されるのもそれはそれで楽しみだし、都会なら遊ぶところがいっぱいあるし。わりと楽観的です。勤務地は東京ですか？

**石橋** 東京税関という名前ですが、東京以外にも転勤があります。関東甲信越が管轄なので、例えば新潟県なども含まれます。税関というと空港のイメージが強いですが、港にも出張所がありますし、どこに転勤になるかはわかりません。いろんなとこに行ってみたいので、転勤もいいと思っています。

**中村** 私も全国転勤があって、どこになるかはわかりません。営業職で希望を出していて、東京でバリバリやりたいなと思っています。

**三尾** 内定を受けますかという確認の電話があった時に、結婚予定の有無を聞かれました。近々結婚を考えているなら、転勤はしにくいだろうからということみたいです。そう言われてしまうと、逆に全国転勤の仕事を選んじゃったら、なかなか身を固められなかったりするのかなと心配になりました。

**石橋** **中村** 今からそこを心配するの？

**三尾** ついて来てって言う度胸ないです。申し訳なくて、引越しなんてさせられない。

**石橋** 家族のことはありますよね。私は地元が和歌山県で、親には寂しい思いをさせて申し訳ない気持ちもあります。県庁も受けていて、地元か東京か、最後まで迷いました。でも、やっぱりやりたいことを優先して、東京に行ってやろうと。

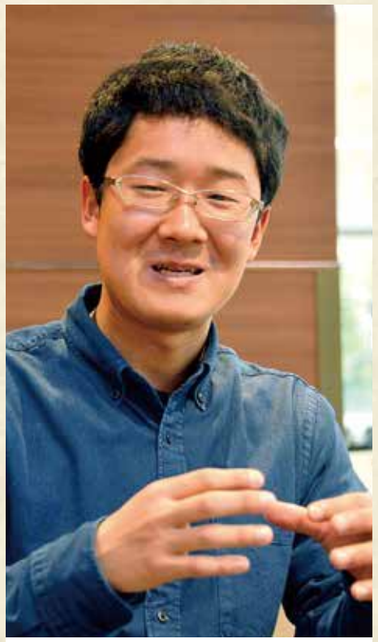
## 後輩へのアドバイス

**中村** 1～2回生のうちは、まずは視野を広げることですね。私は例えば先輩の誘いで全然知らないロックバンドのライブに行ったり、美術史の授業を受けて気になった奈良の正倉院展に出かけたりしました。どんな経験もいずれ自分の糧になります。3回生は、自分かどんな人間か、譲れないものは何かなど、自分を構成するものを知ってほしい。就活中は周りがみんな立派に見えて、不安になります。でも自分が駄目と思わないで、選考で落とされたら「こんな立派な人材を落とすなんて！」くらいの強気な姿勢で立ち向かって、自分が自分のことを一番に認めてあげてほしいです。

**三尾** 1～2回生は、短期でもいいのでアルバイトをして、いろいろな仕事を知るといいと思います。就活はお金がかかるので、貯金しながら視野も広がって一石二鳥です。3回生は、私も自己分析で得手不得手を知っておくことが大切だと思います。ただ落とされた企業に対しては、私は中村さんとは逆で「さすが！」と思っていました。面接で取り繕った受け答えをして落とされると、「見抜かれている。俺がエントリーしただけのことはあるな」と思っていました。

**中村** 同じことでも、捉え方が全然違いますね。見習わないと。

**石橋** 私は就活を始める時点で公務員と決めていましたが、1～2回生のうちは、いろいろな企業の説明会やイベントに行ってみるといいと思います。ちょっと足を運ぶだけでも、自分がどんなことに興味を持つのか、見つけやすくなります。それから、公務員をめざす人には、公務員にもいろんな仕事があるということを知ってほしい。ホームページでもＳＮＳでも情報がたくさんあるので、早いうちから幅広く情報収集するのがいいと思います。



**三尾 剛（みお たけし）さん**
教養学科自然研究専攻
内定先：株式会社セブン-イレブン・ジャパン

大教大NAVI 天

大教大YouTube

アスリート視点の動画が見られます。

# Athlete's View

体などに装着し、臨場感あふれる映像を記録できるカメラを使って、アスリート視点の動画を撮影しました。

大阪教育大学　体育会

★ ★ ★ ★ ★

# HANDBALL

## 村松 沙耶

むらまつ さや

教養学科スポーツ専攻 3回生
ポジション：センターバック/レフトバック

**平成29年度 全日本学生ハンドボール選手権大会　優秀選手賞**

## 日本一をめざして

ハンドボールを始めたのは、小学4年生の時です。先に兄がやっていたのと、他に入部できるクラブもなかったから。それからずっと続けてきましたが、辞めたいと思ったことは一度もありません。

大教の女子ハンドボール部の練習は、量より質。練習は厳しいですが、コートを離れるとみんなでふざけたり騒いだりもします。顧問の土井先生も含めて、とても仲が良いです。

先生の指導の下でレベルの高いハンドボールの技術を学ぶのはもちろん、感謝の気持ちを忘れないこと、相手の気持ちを考えて行動することを先輩や先生から教わりました。

今後の抱負は、11月に行われる全日本学生ハンドボール選手権大会で優勝することです。土井先生の退任が近いので、このメンバーで絶対日本一になりたいです。

**DATA：女子ハンドボール部**
部員数19人（2017年5月現在）
平成29年度 全日本学生ハンドボール選手権大会
準優勝

★ ★ ★ ★ ★

# SWIMMING

## 平岡 太一

ひらおか たいち

学校教育教員養成課程国語教育専攻 4回生
専門種目：平泳ぎ

## 仲間との出会いが一番の財産

気づいた時には、水泳を始めていました。本格的に競技としてやり始めたのは小学6年生からです。4回生の夏に水上競技部を引退するまで、約10年間続けてきました。

練習は毎日厳しくて、辛いこともたくさんありました。でも、辞めたいと思ったことは一度もなかったです。楽しくやってきました。

部活で得たものはたくさんありますが、一番は共に戦ってきた仲間です。辛いことや苦しいこともありましたが、いつも隣で馬鹿をやって笑ってくれるたくさんの仲間に出会えました。この4年間、水泳をしてきてよかったと思っています。

この春からは教員として社会に出ていきます。これまでの水泳人生で得たたくさんのことを子どもたちに伝えたいです。特に、水泳の楽しさを知ってほしいと思います。

**DATA：水上競技部**
1949年創部。部員数23人（2017年5月現在）
男女ともに関西学生選手権水泳競技大会
1部リーグ所属

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY'S **TOPICS**

## 大阪市と「子どもの未来を拓く」包括連携協定を締結 01

本学と大阪市は、子どもの貧困への対応や教員の資質向上をめざす包括連携協定を締結しました。大阪市役所市長公室で、吉村洋文大阪市長と栗林澄夫学長が協定書に署名しました。

調印式では、平成30年度から本学連合教職大学院内に教員組織「大阪市教員養成協働研究講座」を、大阪市教育委員会と協力し設置することを発表。元校長など学校現場経験者と大学教員が研修プログラムの開発などを通して、大阪市の抱える教育課題への対応に取り組みます。また、学生の実習などにおける協力体制を整え、現場経験を積んだ学生に対して市の採用試験で加点する制度も導入予定です。

吉村市長は、「少子高齢化が進む中で、大阪の都市力を高めていくには人の力が必要であり、人の力の源泉は教育。大学と教育現場を密接に結びつけ、大阪の子どもたち、大阪の教育、大阪の成長にとってプラスになることをやっていきたい」と意気込みました。栗林学長は、「実践力のある教員を育成していくモデルケースとなる取り組み。その先導的な役割を大阪市と本学で担っていきたい。大阪の発展を教育面でサポートするため、まずは大阪市と高度な取り組みを行い、府域全体、そして全国へと波及させたい」と期待を述べました。

## 現職教員が大阪の学校改革を提言 02

新時代の学校改革を提言する「多文化共生社会構築をめざした学校改革への提言」国際協働プログラム成果発表会」が行われ、教育関係者ら約80人が参加しました。

この「提言」は文部科学省の委託事業で、大阪府、大阪市、堺市の各教育委員会が後援。本学連合教職大学院に在学している現職教員ら12人が今夏、ドイツ、カナダ、イギリスの学校現場を視察し、各国の状況や大阪の地域特性を踏まえながら学校改革案をまとめました。来日後間もない外国人児童らの日本語習得支援策や、災害時に子どもの心を救うため「心のケアセット」を準備することなど、さまざまな領域に関する提案が発表されました。

参加者全員の投票により、大阪市立天王寺小学校の安田加弥教諭による「インクルーシブ教育の実現－コーディネーターを軸にした校内支援の充実－」が最優秀提言賞に選ばれました。多様化する子どもの問題について、コーディネーターを中心としたチームによる支援体制を構築するという内容で、柔軟な人材活用により教員の負担も軽減できるとしました。安田教諭は「提言にまとめることで、どうすれば実現できるのか具体的に考えることができた。実現に向けて一つずつ取り組んでいきたい」と抱負を語りました。

## 小・中学校でネット利用の授業に取り組む学生らが大阪府警から感謝状 03

小・中学校でインターネットの安全な利用について授業を行っているボランティア団体「サイバー防犯ボランティア」が、2月3日に大阪府警察本部から感謝状を贈呈されました。

同団体は、本学教職教育研究センターの岡田耕治教授の授業を受講した学生たちで構成されており、現在40人が登録しています。月1回、4～8人程度の学生がチームを組んで学校を訪問。授業では、SNSやインターネットとの安全な付き合い方について、こうしなければいけないと一方的に教えるのではなく、どうすればいいのかを子どもたちと対話しながら共に考えたり、学生自身が心がけていることを伝えたりしています。

岡田教授は感謝状を受けたことについて、「学生たちは、授業の進め方について話し合うなど入念に準備し、授業のあとは訪問校の校長や教員からフィードバックをもらいます。大学の授業で学んだことを学校現場で確かめることができるのは、これから教師になる学生にとって貴重な体験。それが評価されたことは今後の励みになります」と話しました。

## キャリア支援センターがリニューアルオープン 04

学生の就職活動やキャリア教育を支援する「キャリア支援センター」が、大学会館2階にリニューアル移転しました。2月15日に行われた開所式には、栗林澄夫学長、学生保護者会である教育振興会の首藤久美会長、同窓会「天遊会」の島内武会長らが出席し、テープカットでオープンを祝いました。

新しいセンターは、多くの学生が利用する講義室と食堂を結ぶ動線上にあり、広さは2倍近くになりました。事務室のカウンターで対応していた個別相談は5席の専用ブースを新設し、資料閲覧コーナーはテーブルを増やしてゆとりのある配置に。奥のフリースペースでは、最大約40人が入れる講義形式のガイダンスや、面接練習などを行うことができます。

栗林学長は「教育振興会と天遊会のご支援に深く感謝します。本学を日本の教員養成の基幹大学としていくために、今後もお力添えをお願いしたい」と話しました。首藤氏は「就職という大きな関門を支援するセンターを整備いただき大変嬉しい」と述べ、島内氏は「今後人材面でもサポートしていきたい」と力を込めました。手取義宏キャリア支援センター長は「教職員で力をあわせ、学生の成長と船出を支えていきたい」と抱負を語りました。



大阪教育大学
# 附属学校園ウォッチ
Affiliated School | Osaka Kyoiku University

## 附属天王寺高生が自転車ロード世界選手権で大健闘

附属高等学校天王寺校舎3年 下山美寿々さん

自転車レースの世界大会「UCI国際自転車競技連合ロード世界選手権」（ノルウェー・ベルゲン、9月開催）に、附属高等学校天王寺校舎3年の下山美寿々さんが出場しました。日本からただ一人のジュニア女子出場者として、ロードレース部（76.4km）で26位（2時間10分29秒）、タイムトライアル部（16.1km）で30位（25分50秒）と大健闘しました。

自転車を始めたのは、自宅近くの公園で開催されているトライアスロン大会に出場したかったからという下山さん。高校生になって本格的に競技を始め、登校前や夕方に一人で練習しています。2016年アジア選手権ロードレースジュニア女子優勝、全日本選手権タイムトライアル1位、2017年アジア選手権ロードレースジュニア女子2位など、わずか数年で世界トップレベルに成長しました。昨年は、文部科学省が推進する海外留学制度「トビタテ!留学JAPAN」の支援を受けて、競技が盛んなベルギーに約4か月間、自転車留学しました。留学中はコーチ宅にホームステイし、多くのレースに出場しました。

レース中の下山さん（写真提供：Kei Tsuji）

下山さんは今回の結果について、「上位を狙ったのですが、苦しい局面であと一歩踏ん張ることができず悔しかったです。でも、世界との差を身をもって感じたことで、新たな光を発見できました」と話しました。今後については「一番近い目標は、2020年の東京オリンピック出場です。これからも努力を怠らず、目標に向かって歩んでいきたい」と目を輝かせました。

## 附属平野中生が北原白秋をしのぶ白秋献詩で文科大臣賞

近代日本を代表する詩人である北原白秋をしのび，自作の詩を朗読する「白秋献詩」（主催：福岡県柳川市，応募総数：9136篇）で，附属平野中学校3年の曽山詠心さんが最高賞である文部科学大臣賞を受賞し，同校3年の森山広暉さんが福岡県教育委員会賞を受賞しました。曽山さんは，北原白秋の命日である11月2日（木）に柳川市で開催された白秋祭で，受賞作「希望」を朗読しました。

附属平野中学校3年 曽山詠心さん㊨ ／ 附属平野中学校3年 森山広暉さん㊧

昨年度も入賞している曽山さんは，今回の作品について「国語辞典を無造作に広げたページにあった『誘蛾灯』という言葉からインスピレーションを得て，光が蛾を殺すという構図から特攻隊をイメージした。登場人物を鴉に置き換え，光という確定した絶望に向かう者の，あきらめともとれる勇ましさを表現した」と語りました。

森山さんは，四天王寺のお盆供養である「盂蘭盆会（うらぼんえ）」の様子を描きながら，2月に他界した祖父との別れや今後の自身への思いを「万灯篭（まんとうろう）」という詩に込めました。出来上がった作品を祖母に見せると感激して「勇気づけられた」と言ってくれ，受賞を伝えたときにはとても驚いていたそうです。

アニメや漫画を見たり，絵画を描いたりするのが好きという曽山さんは，「将来は何らかの形で誰かを楽しませることができる創作活動がしたい」と夢を語りました。真面目にコツコツ取り組む性格という森山さんは，「医療従事者になって人の役に立ちたい」と話しました。

**表紙作品：「自然のうつろい I」（部分）**
教養学科芸術専攻絵画ゼミ共同制作作品
油彩/アクリル/コラージュ/キャンバス/パネル　180cm×450cm　2017年

**作者：辻元美穂、西端みずほ、今川日菜子、河内瑞葉、下浦萌香、正野綾花、藤本梨沙子、矢崎友美子、大塚夏菜、尾崎晴菜、小西結衣、佐々敦子、福島愛**


公式アプリケーション Android・iOS スマートフォン対応アプリ
大教大NAVI
大阪教育大学入試ナビゲーター
天遊の動画も見れる
取材時のオフショットや、紙面では伝えきれないイキイキとした学生・熱意のこもった教授などのナマの声を動画で配信!
〈詳しい使い方はホームページをご参照ください〉
App Store・Google Playから検索。
Available on the iPhone App Store
ANDROID APP ON Google play
大教大



**天遊 特別号**（vol.44）2018年3月発行
企画・編集・発行／
国立大学法人大阪教育大学広報室
〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
TEL.072-978-3344　FAX.072-978-3225
E-mail　kouhou@bur.osaka-kyoiku.ac.jp
https://osaka-kyoiku.ac.jp
公式SNS